



第81号  
December 2019

編集・発行



社会福祉法人  
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1  
TEL.098-884-3173 (代) FAX.098-882-5688

✉ o.fukusi@okinawa-j.jp  
🌐 http://www.okinawa-j.jp/



八重山厚生園で初めて開催された音楽祭の様子

審査講評では、「利用者が楽しんでいていつもと違う笑顔が見れて良かった」、利用者からも「楽しかった」等の音楽祭の話で盛り上がり、利用者、職員とのコミュニケーションの一環にもなりました。沖縄本島で行われている、のびのび音楽祭にはまだまだ運営・質は遠く及びませんが第2回・3回と回数を重ね利用者の楽しめる音楽祭を作っていきたいです。いつかICTやビデオ等でのびのび音楽祭に参加し、優勝「八重山厚生園」と言われるその日が来るように。

残暑感じる令和元年9月27日レク活動の充実を目的とした第1回八重山厚生園音楽祭を開催しました。活発な活動になるように各棟対抗で順位づけを行い、競争意識を出すようにしました。また、審査員には園長・看護師・栄養士・居宅・訪問など他職種にお願いし八重山厚生園全体での活動とすることが出来ました。各棟の発表では、日頃取り組んできた利用者の歌声・踊り・楽器の演奏を披露し、会場全体から手拍子なども起こり和やかな雰囲気での発表を行うことが出来ました。

養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園  
介護員  
たまと けんた  
玉元 健太



八重山厚生園音楽祭



# のびのび音楽祭 第16回 開催報告

障害者支援施設 北嶺学園  
介護員  
おわた のぶや  
**太田 信也**



11月20日（水）第16回ののびのび音楽祭がよみたん救護園で開催されました。7施設から利用者127名、職員72名、療育音楽講師の上田彰子氏、ボランティアとしてソーシャルワーク専門学校介護・社会福祉学科学生23名、総勢220名あまりの皆さんが会場に集まり、音楽祭を盛り上げていただきました。

老人施設の利用者の皆さんは、若い世代に合わせた曲を、お年を感じさせないパワフルなノリで演奏し、皆さんを驚かせていました。各施設とも利用者に合わせた工夫をされ、練習も積み上げ臨んでいるなど感心しました。利用者の皆さんの表情も笑顔でリズム良く楽器を振り、楽しい気分で演奏している姿には会場の皆さんも感動したと思います。

各施設の演奏が終了し、優勝は「沖縄療育園」。おめでとうございます。利用者一人一人が奏でる音色は心に響き感動しました。来年も、のびのび音楽祭をONE・TEAMで盛り上げましょう！お疲れ様でした。

## 学生ボランティアさんの感想

利用者さんと一緒に鑑賞している時、手を握ってくださって「すごいね」「楽しいね」など気持ちを共有することができて楽しかったです。

一生懸命鑑賞している方、一緒に踊り出す方など、利用者様のいきいきとした姿を見ることができて、このようなイベントがあると笑顔もあっていいなと思いました。

利用者様の特性に応じて、色々な方法や工夫をし、楽器を弾いている様子や、それぞれの施設の雰囲気を感じ、利用者様同士の団結力がすごいと感じました。

学校には無い福祉用具などを見ることもできて、勉強になりました。

## 優勝施設

### 「沖縄療育園」利用者の感想

桃原さゆりさん

はじめは音を鳴らすタイミングが難しかったけれど、練習をしていくうちにうまく出来るようになった。本番が無事に終わると「やったー」という気持ちで、涙が止まりませんでした。昔の職員にも会えて嬉しかった。

池間明美さん

優勝旗も持って帰ったら、みんなが「すごい」と喜んでくれたよ。



## 大同火災海上保険株式会社様よりご寄贈いただきました

11月18日、大同火災海上保険株式会社様（与儀達樹 取締役社長）より車椅子の寄付を頂きました。6台の寄附を頂き、当法人の運営する名護厚生園、いしみね救護園、北嶺学園にそれぞれ2台ずつを割り当て、既に園内での移動や病院受診等の移動にと大活躍しております。大同火災海上保険株式会社様へ心より感謝申し上げます。



# 沖縄県社会福祉事業団 事務局主催 研修報告

## 排泄ケア研修に参加して



養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園  
介護員 宮古 留美 (みやこ るみ)

宮古 留美

排泄ケア基礎知識及び日々の実践で生じる課題について多職種で共に学び、互いの専門性を発揮した事例検討を通じ得られた知識・技術・チームワークを自施設へ持ち帰って共有・実践することで法人全体の排泄ケアを高め、利用者サービスの質の向上を目指す事を目的に、排泄ケア研修(講師：NPO法人日本コンチネンス協会会長 西村かおる氏)に参加しました。

コンチネンスケア(排泄のコントロール)排尿・排便が正常の状態の事。排泄障害には運動制限(生活動作等)・骨盤の緩み・神経因性の膀胱・尿路感染・夜間多尿・便秘・また認知機能の障害や精神状態等様々な原因があげられます。排尿排便の日記・記録をつけることで排尿の状態や便性の状態・障害の把握ができ、薬剤との関係性も推測出来ることも学びました。これからもチームとの共有を大切にケアに対する方向性・排泄行為の流れ・アクセスメント・タイプ別による対処など、利用者者の排泄ケアに取り組む、介護技術を向上させ自らのスキルアップに繋げていき、さらにより良いケアに繋げていきたいと思えます。



## 強度行動障がい者支援研修を受講して



障害者支援施設 あけぼの学園  
介護員 保榮茂 妙子 (ほえも たえこ)

保榮茂 妙子

令和元年8月28日に宮古で開催された事務局主催の「2019年度強度行動障がい支援研修」に参加しました。

研修の中で講師より、強度行動障がいとは「障がいではなくその人の状態であり同時に環境要因が大きく関わっている」と話されましたが利用者の状態を思い返すと合点がきました。

事例では「その人に即した支援を試行錯誤していけば状態が軽減されていく過程」が紹介されており、果たして自分に強度行動障がいの利用者と真直面から向き合う勇気があるのかと考えると同時に、自施設での支援体制を振り返り、強みを活かす支援にもっと積極的に取り組んでいきたいとも感じました。

また、支援区分の程度や加齢に伴うADLの低下という課題にも特性を活かしそれに付随した新たな気付きのサポートが出来れば、利用者自身の意欲向上に繋がり充実感や幸福感も増すのではないかと、〈出来る事〓強み〉を関連付けた支援の必要性を感じました。

職員間でベクトルを合わせつつ臨機応変さも求められる中で、今回は自分の支援を内観し間口を広げるヒントを得る事が出来た研修でした。



8月27日 那覇会場の様子  
(講師：高西正明氏、浦崎千秋氏)



8月28日 宮古会場の様子  
(講師：高西正明氏、仲間優子氏)

## 中間管理職研修を受講して



医療型障害児入所施設 沖縄療育園  
管理課長 又吉 雄洋 (またよし たけひろ)

又吉 雄洋

10月31日、今年度からスタートした「働き方改革関連法」における中間管理職研修を受講しました。講師の社会保険労務士より概要の説明があり、理解を深めることができました。特に「時間外勤務の上限規制」、「年次有給休暇の5日付与」については、職員の時間外勤務状況及び年休取得状況の把握が必須となることから、日頃からの確認作業が必要となります。

時間外勤務の縮減、年次有給休暇の取得しやすい環境をつくるには業務の見直しを図ることが想定され、その際の管理職としての役割は重要だと実感しています。

現在、事務員業務においては負担軽減を図るべく、インターネットバンキングの導入、時間外勤務・年次有給休暇等の管理を「簿冊管理」から「システム管理」への変更等、業務改善を進めているところであります。

今後も引き続き、「働き方改革関連法」と併せて、職員が働きやすく、働きがいのある職場環境づくりに向けて取り組めるよう、努めていきたいと思えます。





# 表彰受賞者紹介

## 社会福祉事業功労者

長きにわたり、福祉の向上に取り組み貢献した事が評価され、その功績へ当法人職員が表彰を受けました。今後とも、利用者本意のサービスの質の向上と経営基盤の強化を図るとともに、広く地域に貢献し、地域の人々に信頼され愛される施設（法人）を目指す一員として、各々の役割を担って参ります。

### 《受賞者》 ■沖縄県知事表彰

沖縄県社会福祉事業団 理事長  
**金城敏彦**

### 感謝状

長きにわたり、当法人施設の都屋の里、具志川厚生園において、生け花の講師として社会福祉に寄与している功績から、感謝状が授与されました。

### 《受賞者》

#### ■沖縄県知事表彰

生け花講師  
**安慶名恵美子**

## 永年勤続表彰

### 《受賞者》

#### ■全国社会福祉協議会会長表彰 (30年以上勤務)

沖縄県社会福祉事業団理事長 **金城敏彦**  
宮古厚生園 栄養士 **伊良部智子**  
宮古厚生園 介助員 **勝連明**

#### ■第62回沖縄県社会福祉大会会長表彰 (25年以上勤務)

八重山厚生園介護支援専門員 **石垣孝**  
名護厚生園 介護員 **崎間修**  
都屋の里 介護員 **牧門朋子**  
都屋の里 管理課長 **宮城尚**  
名護厚生園 栄養士 **森也子**  
(15年以上勤務)

#### ■全国社会福祉事業団協議会 大会永年勤続者表彰 (20年以上勤務)

都屋の里 園長 **花城裕康**  
よみたん救護園 介護員 **島袋あかね**  
沖縄療育園 介護員 **又吉篤志**



## 地域における公益的取組

### 『お金の学校』(貧困とお金と心の問題を、根源から問う) (中間報告)

地域における公益的取組として、9月から当法人主催の『お金の学校』(学長樋口耕太郎)が開講しました。お金と経済を、心と人間関係(社会)を含めた広い概念で捉えることで、貧困と格差の本質を学び、人間中心の真の豊かさを追求することへの一助とすることとし、一流の講師の考え方や生き方、働き方、あり方に直接触れる場となっています。



沖縄大学  
国際コミュニケーション学科准教授  
トリニティ株式会社社長  
**樋口 耕太郎**

12回シリーズの『お金の学校』は、4回が終了した。昨年度の『命の学校』から一般参加者が倍増し、2000人を超える受講者が、熱い土曜日の夜を過ごしている。多くの受講者が涙し、自分の生き方、働き方を見つめ直し、明日からの活力につなげていく。

…それにしても、一連の講義の、何が、人の心をこれほど動かすのだろう。これまでに登壇された講師たちは、一見「取るに足らない」立場の方々である。武藤北斗さんは、従業員20名に満たない小さなエビ工場の工場長。影山知明さんは喫茶店の店主。山本明弘さんは、日本に山ほどある金融機関の中でも、最も小規模な信用組合の理事長だ。

今年30年続いた平成が終わり、「量の拡大が正しい」という時代がともに終わる。目の前に迫っている私たちの未来

は、「私たちの人生にとって、本当に大切なものは何か」を、根源から問う時代になるだろう。それが、どれだけ小さなものであっても、だから、人生の本質を生きる、小さな人たちに、大きな力が宿る。

新しい時代の「学校」は、生徒が教師から正解を教わる場所ではなく、自分で答えを作り出す場所になる。『お金の学校』は、講師の話聞きに行く場所ではなく、自分自身を見つけに行く場所なのだと思ふ。

土曜の夜、沖縄大学。自分自身の姿を見つめにいらっしやいませんか？ 多くの仲間たちが歓迎してくれると思えます。そして、ぜひ、ご家族とご一緒に。



# 施設だより

## 陶芸教室「地域の子ども達を招いて」

救護施設 いしみね救護園  
生活指導員

原口 美和子  
はらぐち みわこ

今年で2回目となる陶芸教室を令和元年8月1日(木)と2日(金)の2日間に開催しました。講師の富山先生と奥様の指導のもと、近隣のこども達を招いての教室となり、1日目は10名、2日目は11名の子ども達が参加されました。

昨年はコップ作りでしたが、今年は、オカリナ風の土笛の製作となり、難易度もかなり高くなっていました。音が出るように穴を開ける作業が難しく、完成間際に音が鳴らないというハプニングもありました。完成した作品はきちんと音も出て、それぞれ思い思いの作品を製作することが出来ました。後日行われた作品披露会では、富山先生が一人一人に作品を渡され、「難しかったにも関わらず皆さんよく頑張っていましたね」と声かけされていました。

参加された皆さんは、作品を見て嬉しそうにそれぞれの作品について話されています。

今後も、地域貢献の一環として救護施設を理解してもらえよう、地域の方々と交流を深めていける行事を色々企画していければと考えています。



## 「伊是名夏子氏」講演会!

婦人保護施設 うるま婦人寮  
生活指導員

金城 善史  
きんじょう よしひと

令和元年9月30日、当寮においてコラムニスト伊是名夏子氏の講演会を開催しました。職員、入所者にむけて講演依頼をし、快く引き受けて頂きました。講演会の内容としては、「人と人が助け合うことってどういうことなのか」と自身の体験をふまえながら話していただきましたが、伊是名氏の持ち前の明るさや前向きな生き方を聞きながら、もの凄いいパワーを感じました。入所者の中には、育児の悩みや養育に不安を抱えている者、成長期の悩みを抱えている同伴児等もいる中で、前向きな気持ちになれるメッセージばかりで出席者全員が「話を聞いてよかった。勇気が出た」と言ってもらえる程の大盛況となりました。講演後も職員、入所者から数多くの質問が飛び交い、時間もオーバーする程でした。私自身も伊是名氏のポジティブな性格に刺激を受けて、より一層入所者支援私生活において励んで行こうと思っただけでした。



## 美ら海移動水族館

養護・特別養護老人ホーム 名護厚生園  
管理課長

玉城 均  
たまき ひとし

当初6月に予定をしていた移動水族館車来園が、天候不良の為9月19日に延期になりましたが案内を掛けた近隣の保育園3カ所の保育園児、当園ご利用者述べ見学者数が305名にものぼり、利用者の中には元「海人」や、さしみ店を営んでいた方や、元「料理人」の方などいろいろと、「あの魚おいしそうだね」と会話が弾んだり、多くの利用者が喜ばれていました。保育園児は殆どの子が水槽に入っているひげのついた「おじさん」という魚をみて大喜びでした。帰りには魚の絵の塗り絵を水族館の職員の方からプレゼントをされ喜ばれていました。



おじさん (和名)



## 育てたお芋の収穫と交流

にしのもり保育園  
主任保育士

仲盛 久美  
なかもり くみ

今年も、八重山厚生園の畑を利用していただき、2歳児以上の子ども達が芋のかずらを植え、時々草取りをしながら芋ほりを楽しみに待っていました。9月26日おじいちゃん、おばあちゃん、厚生園の職員に応援していただき芋ほりが行われました。収穫が遅かったこともあり予想以上に大きく、たくさんのお芋を収穫することができ子ども達も大満足でした。

開園当初から厚生園との交流を行っています。回を重ねるごとに、自然とおじいちゃん、おばあちゃんへ寄り添い、嬉しそうに話をしたり握手ができるようになってきました。核家族が増える中、お年寄りを優しくいたわり、思いやりの気持ちで育まれてきているように感じています。これからも厚生園と楽しい交流を計画していけたらと思います。



# 事業所紹介 ～「地域で暮らす」を支援する～

## 相談支援事業所ほくろいの取組



相談支援事業所 ほくろい  
相談支援専門員 まえだ なおき

前田 直樹

「相談支援事業所ほくろい」は平成26年開設。早5年が経ちました。

今年度からは相談支援専門員が2名から1名増え、3名体制となり管理者(兼任)を含めると職員4名規模の事業所となりました。

相談支援専門員増員により、当法人の沖縄療育園、いしみね救護園、うるま婦人寮に加え、都屋の里施設利用者への相談支援も行えるようになりました。

相談支援専門員の主な業務は、障がい福祉サービスの利用を希望する方々に対



して、本人の意思や人格を尊重し、またご家族のご意向も勘案し、常にご本人目線でごえ、サービスを利用する上で必要なサービス等利用計画の作成をします。また適時に計画見直しのモニタリングを行います。

この5年間、地域で生活する様々な方々と出会いました。長期入院から退院し在宅復帰を目指す方、一般就職を目指す方、地域との交流を求めている方、放課後に専門的な療育環境で子どもを過ごさせたい方など、それぞれ多種多様なニーズがありました。このようなニーズに対して、地域の障がい福祉事業所や医療機関、学校等とのネットワークを築いて行きながら日々の支援にあたっています。地域を知ること、地域資源活用が相談支援のスキルだと強く感じています。

相談支援を通して意義を感じること、多様な事業所との繋がりができ、サービス内で利用者の課題を補うためのサポートや強みをいかしたサポートを受け、地域での生活が充実する(過ごしやすくなる、幸福感が高まる)といった効果に繋がった皆様の喜びを知ることです。

今後一人ひとりのニーズに寄り添いながら利用者が望む生活に向けた支援を行っていくことができたいと思います。



## 地域の中の児童家庭支援センター(児家セン)～出前講座を通して～



児童家庭支援センター はりみず  
相談員 おくだいら ひさこの

奥平 久乃

平成24年8月、県内2カ所目として開設した当センターは、手探りながらも地域への周知の一環として、平成26年度より出前講座を実施してきました。

当初は親子を対象としていましたが、平成30年度、保育園から「このような相談はどこでやったらいいの?」「保護者はどう伝えたらいいの?」という相談を受けたことから、「地域と連携する児家センの役割と支援」と題し、保育園との連携を中心にした内容で出前講座を一園一園巡回実施しています。

主旨として、①当センターの業務の周知②園内での連携体制の構築(児童虐待チェックリスト活用)③保護者への相談機関の情報提供ができることを掲げています。



子育てする保護者に近い保育園や子育て支援センター等の職員に、まずは当センターや他機関の役割を知ってもらい、園内において職員同士の連携を深め、子育てに悩んでいる・困っている保護者に、各々に応じて相談窓口を紹介するという繋がり構築でもあります。

受講後のアンケートでは、「保護者の方に紹介したい」「児家センの事を知らなかったので詳しく知る事ができてよかった」「保護者向けにも子育て講話を実施してほしい」との声やご意見を多く頂きました。出前講座を通し、地域のニーズを受け止め、今後の業務にも活かしていきたいと思っています。



## 地域交流の取組について

### 地域交流 「陶芸づくり」

救護施設 管理課長  
よみたん救護園

みやざと みなこ  
宮里 美奈子

よみたん救護園では、月2回の陶芸活動を行っており、大きな窯があるので、毎年、夏休みになると地域（都屋自治会）の子ども会と読谷村母子寡婦福祉会から陶芸教室を開いて欲しいと依頼があります。出来上がりに2〜3か月ほど要しますが、粘土をこねる作業では、子どもたちよりも保護者の方が真剣な表情で子どもたちに負けず劣らず、陶芸づくりに没頭しています。利用者・職員も参加して、作業工程で注意すべきことを説明したり、作業や仕上げのお手伝いと交流を楽しみながら取り組んでいます。残念ながら乾燥途中で作品が割れてしまうこともありますが、作る楽しさを子どもたちにも伝えてもらい、利用者や職員にとっても子どもたちとの交流は地域と繋がりが、開かれた施設になることと思います。



### げんきな子どもたちとハロウィン交流



養護・特別養護老人ホーム  
具志川厚生園  
生活相談員

おおしろ ごう  
大城 強

10月31日 地域の子どもの会とふれあいを目的とした交流会に、げんき保育園のたくさんのお友達が具志川厚生園に遊びに来てくれました。ハロウィンという事もありそれぞれ好きなキャラクターのコスチュームに身を包み可愛らしい笑顔に利用者の皆様も喜ばれていました。

交流会は、「トリック・オア・トリート！ お菓子をあげないとイタズラしちゃうぞ」と元気いっぱい挨拶に始まり、可愛らしいコスチューム姿でこの日の為に練習してきたダンスを元気づけ、披露して頂き、周りにいる利用者、職員一同笑顔が生まれ和やかな雰囲気になりました。

厚生園のおじいちゃん、おばあちゃん達からのプレゼントとしてお菓子を贈呈し、プレゼントに園児達は目をキラキラさせ、それを見守る利用者の表情は輝きに満ちあふれ「嬉しいさー、またおいでよー」という声がたくさん。利用者からあがり、手を握りながら涙を流されている方もいました。

園児の中にはとびきりの笑顔振りまく子やびっくりにした表情をした子もいて「どっちがハロウィンか分からんねー」と利用者から声が上がりが、笑顔に包まれ楽しい一時を過ごす事が出来ました。園児達にとってもとてもいい経験となったのではないのでしょうか。

園児との交流を通して具志川厚生園の利用者もげんき保育園の園児達にとってもお互いに元気をもらい素晴らしい時間を過ごせたと思います。これからも地域に開かれ、地域に根差し、もっと多くの地域の方々と交流を深め、もっと多くの笑顔を利用者へ届けて行きたいです。





# 施設長リレーエッセイ

還暦同窓会記念宮古島一周(100km)完歩  
健康づくりでアグ(同窓)の絆深める

児童養護施設 漲水学園  
園長 おくはら かずひで

奥原 一秀



アグ達と共に、健康づくりに取り組んでいるウオーキングについて紹介します。

人生の節目の「還暦同窓会」から3年が経過し、元気の体力も運動不足による足腰が弱るアグが増え、更にはメタボになるアグが目立つようになりました。そこで、ウオーキング同好会を結成し、いつまでも若々しく元気を維持する事を目的に、宮古島一周100kmウオーキングを企画実施しました。

宮古島市役所平良庁舎を出発。ゴールに反時計回りで毎週土曜日9時スタートで計11回に亘り歩きました。特に、うえのドイツ文化村から保良川ビーチの12kmでは、途中雨となりとてもきつい所もありましたが、互いに励まし合い楽しく歩く事ができました。また、沿道の野イチゴを見つけたら、それを摘み食べたりし、昔ながらの懐かしい光景と共に楽しい思い出できました。

最終コースの池間大橋から市役所平良庁舎まで歩いたアグは、本当に宮古島一周100km歩いた達成感に、感動し笑顔で還暦記念の更なる思い出作りができました。完歩したその夜は、完歩証の交付を行い、100kmの話で盛り上がり、家に帰ったのは午前3時でした。

これからも「自分の健康は自分で守る」を合言葉に健康づくりに励み、いつまでも元気で楽しく生活していけるようアグ達との更なる活動企画をし、元気なおじ様おば様の絆を深めていきたいと思う今日この頃です。



## 職員の語らい

画用紙のりはさみ  
新聞紙...

障害者支援施設 都屋の里  
介護員 すぎもと みきこ

杉本 美喜子

都屋の里では必需品です。

この備品を使って創作活動をする事は、楽しみの一つです。利用者も創作活動を行う方もいらつしやいます。が、全体を見ながら何が出来るの? という眼差しでじつと見入っておられる利用者が多いのも都屋の里です。今日もクリスマスに向けて、職員が創作し、その横で利用者も糊をつけたり・頑張っています。何が出来るかな?(笑)



映画館のスヌメ

救護施設 よみたん救護園  
管理課長 みやざと みなこ

宮里 美奈子

DVDを借りて映画を観るほど映画好きではありませんが、時間を作って人が少ない平日、一人で映画館に出かけます。映画はもっぱら洋画で、

ディズニー映画の鑑賞が多いですが、特にファミリー映画orファンタジー映画を好んで鑑賞します。映画館で映画鑑賞するスヌメは、①映画館が暗く人を気にしなくていいこと。②上映時間の約2時間、誰ともしやべらずに映画に集中できること。③泣くことができることです。特に③が最大の目的ですね。私が映画館に行くのは泣きたい時、感動する映画や泣ける映画を選びます。あつ! 決して病んでいくわけではありませんよ。むしろ逆です。泣くことはストレス解消になります。何が自分に必要かをちゃんと理解していることです。本当の病気になる前の予防対策ですね。

ルーティーン!!

障害者支援施設 あげぼの学園  
介護員 かめはま ひでよ

亀浜 秀世

本とは無縁で遊び惚けていた頃に知り合いの先輩から何気なく渡された文庫本、それが司馬遼太郎氏の「竜馬がゆく」だった。漫画以外の活字に興味が無かった自分が、本の持つ魅力を感じる事ができた。

奇しくも誕生日と同日の11月15日に天に駆け昇って行った「維新史の奇蹟・坂本龍馬」を想いながら、毎年この時期になると関係文庫本等を手にとつて見入ってしまう。よしっ、男磨きを始めよう。

